



## “ 広島大学のCAPWR, それは「猫の手プロジェクト」から始まった ”

『CAPWR』それは、10年以上も続く広島大学の女性研究者支援活動の歴史です。

子育てをしていると、あまりの忙しさに「猫の手も借りたい!」という思いにかられることがあります。大学教職員も例外ではありません。教職員、特に女性教職員は、駆け出しの時期と出産・子育ての時期がちょうど重なるので、就業と家庭の両立に苦慮する職種の一つです。

こうした悩みに応えるように、科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル」が公募されたのは平成17年の暮れも押し詰まった12月末でした。この公募に参加すべく、翌年年明け早々から、広島大学の女性研究者たちによって、ワーキンググループ(WG)が結成されました。長年アメリカで研究生活を送った後に広島大学に着任された田島文子理学研究科教授(当時)がそのWGのリーダーとなって、「女性研究者支援モデル」採択を目指す「猫の手プロジェクト」がスタートしました。

同プロジェクトでは、まず、広島大学の女性研究者が子育て・介護と仕事の両立のために何を必要としているかの調査と、広島大学の男女共同参画に関する基礎データ収集を行いました。こうした現状分析の結果に基づき、「猫の手プロジェクト」WGと大学首脳部の間で、広島大学としてどのような取組が必要か、実現可能か、について議論が重ねられ、その結果、研究環境の整備と意識改革の二つを柱とする「Equality Platform(男女平等な研究・教育の場)」の全学的構築をめざすプランが提案されました。

この広島大学最初の女性研究者支援プランは、田島教授により「CAPWR(Career Advancement Project for Women Researchers)」と命名されました。残念ながら、同プランの申請は、初年度は採択には至りませんでした。これが契機となって、広島大学における男女共同参画の基盤整備が推進されていきました。平成18年10月には、「広島大学男女共同参画宣言」が出され、平成19年2月には「男女共同参画推進委員会」が設置されました。

「猫の手プロジェクト」WGは、平成19年2月に「女性研究者支援プロジェクト(CAPWR)研究センター」として正式に発足し、プロジェクトのロゴマーク(左上)が、ニューヨーク在住の若手アーティストMika Tajima氏により制作されました。平成19年5月、これまでの活動が実を結び、広島大学提案の「リーダーシップを育む広大型女性研究者支援」が、科学技術振興調整費女性研究者支援モデルとして採択されます。その骨子は、①両立支援環境プログラムと②意識改革プログラムの基盤の上に、③広島大学独自の人材育成リーダーシッププログラムを展開して、女性研究者の育成を目指すというものでした。

平成20年4月には「男女共同参画推進室」が設置されます。平成22年度の科学技術人材育成費「女性研究者養成システム改革加速」事業によって「広大システム改革による女性研究者活躍促進(平成22～26年度)」が、平成25年度には「女性研究者研究活動支援事業(平成25～27年度)」が採択され、広大における男女共同参画の取組が強化されていきます。

平成29年度の科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」では、広島大学の「国際型ダイバーシティ研究環境実現プログラム(平成29(2017)～2022年度)」が採択され、実施中です。同プログラムの英語名は「CAPWR(Career Advancement Project for Women Researchers)」とし、上記のCAPWRロゴを使っています。

平成18年度には9.0%であった広島大学における女性教員比率ですが、平成30年度には16.7%にまで増加しました。「猫の手プロジェクト」から始まった広島大学の男女共同参画推進のための取組は、女性と男性の研究者がそれぞれの個性を伸ばし、活かせるような研究・教育環境の実現を目指して、これからも進化し続けます。